

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：社会人類学調査法 ILAS Seminar :Social Anthropological Research			担当者所属 職名・氏名	地球環境学舎 准教授 岩谷 彩子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2018・前期	受講定員 (1回生定員)	5(5)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	木2	教室	共北3A			使用言語	日本語
キーワード	人類学 / フィールドワーク / エスノグラフィー						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
【授業の概要・目的】							
社会人類学の調査方法であるフィールドワークの意義と方法論を、講義と関連文献の講読、受講者の関心に基づいたフィールドワークの企画立案・実施、フィールドワークの実施、調査結果の分析とまとめ、を通して理解する。							
【到達目標】							
フィールドワークの手法によって、社会や現象の分析ができるようになる。 効果的なデータ分析とプレゼンテーションの手法を習得する。							
【授業計画と内容】							
1. フィールドワークと社会理論 2. フィールドの選択と研究設問の設定 3. インタビューとナラティブ・アプローチ(1) 4. インタビューとナラティブ・アプローチ(2) 5. 文献調査の重要性 6. エスノグラフィーを書く(1) 調査者のポジショナリティをめぐって 7. エスノグラフィーを書く(2) 引用の作法 8、9. フィールドワークの立案 10. 予備調査 11. 予備調査についての報告 12. 本調査 13. 本調査についての報告 14. レポートをまとめる 構成・データ分析・文献目録							
【履修要件】							
他の人類学に関する講義を同時に受講していることが望ましい。							
【成績評価の方法・観点及び達成度】							
授業への出席が前提となる。講義内での受講生の報告(40%)、各自が企画・立案したフィールドワークにもとづくエスノグラフィー(60%)で評価する。							
【教科書】							
李仁子・金谷美和・佐藤知久(編)『はじまりとしてのフィールドワーク - 自分がひらく、世界がかわる』(昭和堂) J.クリフォード、G.マーカス(編)『文化を書く』(紀伊國屋書店) 桜井厚『インタビューの社会学 ライフストーリーの聞き方』(せりか書房) 佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』(新曜社) 住原則也・箭内匡・芹澤知弘『異文化の学びかた・描きかた なぜ、どのように研究するのか』(
ILASセミナー：社会人類学調査法(2)へ続く							

ILASセミナー：社会人類学調査法(2)

世界思想社)
野口裕二(編)『ナラティブ・アプローチ』(勁草書房)

[参考書等]

(参考書)
ジョン・ヴァン＝マーネン『フィールドワークの物語 エスノグラフィーの文章作法』(現代書館)
鏡味治也・関根康正・橋本和也・森山工(編)『フィールドワーカーズ・ハンドブック』(世界思想社)
菅原和孝(編)『フィールドワークへの挑戦 - <実践>人類学入門 - 』(世界思想社)
藤田結子・北村文(編)『現代エスノグラフィー 新しいフィールドワークの理論と実践』(新曜社)

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で提示される関連文献の講読と、自らの問いにもとづきフィールドワークを企画立案・実施し、調査結果をまとめることが求められる。なおフィールドワークは、受講生の都合や調査内容によっては、木曜2限の時間内にとどまらず土日等を利用して実施する場合もある。

[その他(オフィスアワー等)]

- ・総合人間学部の学生は、別途選抜を行うので、総合人間学部便覧のシラバスを確認のうえ第1回目の授業に出席すること。
- ・フィールドワークは、受講生の実費で行うこと。
- ・学生教育研究災害傷害保険へ加入しておくこと。
- ・プレゼンテーションにあたっては、パワーポイントが使えることが望ましい。
- ・授業中、疑問点などは積極的に質問すること。講義を通して自らが立てた問いを深め、形にしていく喜びを体験してください。